

日本移民学会 第19回年次大会

「移民による文化創造の系譜ーブラジル、ハワイ、フランス」

《会場》同志社大学今出川キャンパス至誠館

〒602-8580

京都市上京区今出川通り烏丸東入

地下鉄烏丸線今出川駅前



【問合せ先】

〔大会担当者〕 吉田 亮

〔TEL〕 075-251-3409 〔FAX〕 075-251-3066（吉田亮研究室内）

〔E-mail〕 ryoshida@mail.doshisha.ac.jp

〔事務局〕 菅 美弥

〔TEL/FAX〕 042-329-7328 〔E-mail〕 imingakkai@gmail.com



19th Annual Meeting Doshisha University

第1日目

7月4日 [土]

- 会員控え室 (至誠館 32 教室)
- 書籍販売 (至誠館 32 教室)

9:30-10:30 四役会議 (至誠館 3 階会議室)
10:30-12:30 第2回運営委員会 (至誠館 3 階会議室)
12:00- 受付開始 (至誠館 2 階踊り場)

12:30-14:00 プレイメント ラウンドテーブル

[A会場 至誠館 23 教室] 史料収集の ABC

- ・菅 美弥 (東京学芸大学)
「米国センサス史料への接近：国立公文書館での収集を通じて」
- ・山本恵里子 (カリフォルニア大学 (UCLA) 客員研究員/元椋山女学園大学)「移民研究とオーラル・ヒストリー：日系アメリカ人の取り組みを中心として」
- *司会 拝野寿美子 (神田外語大学非常勤講師)

[B会場 至誠館 24 教室] エスニック・ネットワーク

- ・中野克彦 (立命館大学非常勤講師)
「ハワイにおける華人のエスニック・ネットワークと中国」
- ・岡野宣勝 (成城大学民俗学研究所研究員)
「エスニック・ネットワークのもう一つの利用法—特に米国の沖縄占領統治政策におけるハワイ沖縄移民の役割について」
- *司会 高橋典史 (宗教情報リサーチセンター研究員/國學院大學研究開発推進機構共同研究員)

[C会場 至誠館 21 教室] 日本における多文化共生の現状と課題

- ・小島祥美 (愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター)「外国人の子どもが揺れた『就学』」
- ・小林孝広 (早稲田大学人間総合研究センター客員講師)
「フィリピン食料雑貨店サリサリストアの長いすを『読む』」
- ・柴田寛之 (早稲田大学大学院政治学研究所博士課程)
「在日日系ブラジル人をめぐる国と地方の相克：シティズンシップの対抗という視点から」
- *司会 フォンセカ酒井・アルベルト清 (城西国際大学語学教育センター)

14:15-16:50 大会企画シンポジウム (至誠館 22 教室)
「移民による文化創造の系譜 — ブラジル、ハワイ、フランスの場合」

- 14:15** 開会宣言
- 14:20** 大会企画シンポジウム趣旨説明
高木 (北山) 眞理子 (愛知学院大学)
- 14:30-15:10** 基調講演 細川周平 (国際日本文化研究センター)
「日系ブラジル文化の変容」
- 15:10-15:40** 報告 城田 愛 (大分県立芸術文化短期大学)
「ハワイにおける沖縄系移民と先住民の文化交流のダイナミズム」
- 15:40-16:00** 報告 昼間 賢 (早稲田大学非常勤講師)
「フランスのベトナム移民の音楽 新たなアイデンティティの形成へ」
- 16:00-16:10** 休憩
- 16:10-16:25** コメント 中牧弘允 (国立民族学博物館)
- ~ **17:00** フロアディスカッション、総括

[大会企画シンポジウム趣旨/高木(北山) 眞理子]

移民のもたらした文化が移民先でホスト社会の文化および他の移民文化と出会ってまじりあい、新しいものになっていく、というプロセスを移民の種々の文化表象のケース・スタディで歴史的にたどっていきたい。今回は基調講演者に、テーマに関係したお話を少々刺激的な形でお話しいただいた上で、ふたりの若手の報告者にケース・スタディを話していただき、おひとりのコメンテーターに総括的なコメントをいただき、活発な議論を引き出していただけたらと考えている。

移民が移民先のホスト社会で異なる文化と出会い、新しい文化を生み出していくという考え方については、種々のパターンが考えられる。同じ日本人移民でも異なる移民地の場合、異なるプロセスをたどったであろうし、日本人移民と他の移民グループでは、違いがあるであろう。さらに移民の時期が違えばどうである(あった)のか。また単純に移民の持ち込んだ文化が「変わっていく」というばかりでなく、移民先のホスト社会での経験の中で、二世、三世、四世が、自覚的に新しい「文化をつくっていく」ということもあるのではないかと。

全体として、移民が渡った先での Interaction つまり、ホスト文化と移民文化が相互に影響し合っていて、その場、その時代だからこその新しい文化が創造されていったプロセスが浮き彫りにされていくことを期待している。

17:00 - 17:50 総会 ① (至誠館 22 教室)
 18:00 - 20:00 懇親会 (平安会館)
 クリントングループ「パガナイ」の演奏、踊りあり

※懇親会会場：平安会館

● 行き方

京都市地下鉄「今出川駅」下車、南6番出口徒歩7分、同志社大学今出川キャンパス西門を出て烏丸通りを南に徒歩10分

● 住所：京都市上京区烏丸通上長者町上る

● 電話：075-432-6181

第2日目

7月5日 [日]

8:30 受付開始 (至誠館 2 階踊り場)
 8:30 - 9:30 第3回運営委員会 (至誠館 3 階会議室)
 9:30 - 12:30 自由論題報告 (下記各会場)

《自由論題報告》

A 会場 (至誠館 23 教室)		司会：石川友紀、今泉裕美子
新垣 (岡野) 智子	海を渡った位牌 — ハワイ沖縄移民社会へと拡張される祖先祭祀とその問題点について —	
野入 直美 (琉球大学)	「世界のウチナンチュ大会」と沖縄県系ネットワーク (1) — ハワイとブラジルからの参加者の比較を中心に —	
鋤塚 賢太郎 (琉球大学)	「世界のウチナンチュ大会」と沖縄県系人ネットワーク (2) — 越境的な移動の経験差と沖縄社会への対応 —	
金城 宏幸 (琉球大学)	「世界のウチナンチュ大会」と沖縄県系人ネットワーク (3) — ネットワーク化の紐帯をめぐって —	
B 会場 (至誠館 21 教室)		司会：山本岩夫、柳沢幾美
日比 嘉高 (名古屋大学)	日系アメリカ移民一世の日本語文学 — その初期の展開をさぐる	
松盛 美紀子 (同志社大学大学院アメリカ研究科)	いかにして日系アメリカ人女性は大学へ参入していったのか：ソロリティー Chi Alpha Delta に所属した日系アメリカ人女子学生を中心に	
大原関 一浩 (ニューヨーク州立大学大学院修了)	日本人移民の離婚：シアトルとサクラメントの場合、1907-1920 年	
鳥巢 典 (京都精華女子高校)	アメリカ日本人移民のアメリカ化運動 — カリフォルニア州在米日本人会の啓発運動を中心に、1908 年～ 1924 年 —	
C 会場 (至誠館 24 教室)		司会：飯田耕二郎、糸井輝子
津田 睦美 (成安造形大学)	仏領ニューカレドニアの日本人移民 — ふたつの世界大戦に翻弄された日本人と、戦後日系コミュニティの変遷について	
デイ 多佳子 (北イリノイ州立大学)	間期アメリカ中西部における、大アジア主義団体「黒龍会」の影	
河原 典史 (立命館大学)	カナダ日本人移民史研究における住所氏名録と火災保険図の歴史地理学的活用 — ライフストーリー研究への試的アプローチ —	
D 会場 (至誠館 33 教室)		司会：広瀬玲子、中野達司
宋 嶸營 (立命館大学大学院政策科学研究科)	韓国における国際結婚女性移住者に対する政策の実態	
大西 裕子 (立命館大学大学院国際関係研究科)	在英国国際結婚日本女性のジェンダーとアイデンティティ — 仕事と家族のはざままで —	
吹原 豊 (フェリス女学院大学)	インドネシア人移住労働者の生活世界と言語習得 — 韓国における事例 —	
エリカ・ロッシ (一橋大学大学院社会学研究科)	越境するチチャ音楽を通じてペルー人の移動を考える — 国内移動から国際移動へ	

12:30-13:30 昼食

13:30-13:50 総会② (至誠館 22 教室)

14:00-16:30 開催校企画シンポジウム (至誠館 22 教室)

テーマ 「移民と宗教—共生の模索」

*司会：物部ひろみ (同志社大学)

【趣旨説明】

【報告 1】 石川真作 (京都文教大学)

「ドイツにおけるアレヴィー—トランスナショナル空間に構築される『想像の信仰共同体』—」

【報告 2】 高橋典史 (宗教情報リサーチセンター／國學院大學研究開発推進機構)

「現代日系仏教のハワイ・北米布教の現状と新たな動き」

【報告 3】 山田政信 (天理大学)

「日本産ブラジル系プロテスタント教会の設立と展開」

【コメント】 守屋友江 (阪南大学)

【全体討論】

【開催校企画シンポジウム趣旨】

宗教は自己・他者・聖なるもの(究極的な存在)との関係の概念であり、既存の関係性を維持・変容・交差させるという実態をもつ。人の越境移動は既存の関係性の脱構築、再構築を伴い、宗教はこうした移民の人生の不確定性に意味を与える概念や活動実態を提供する。結果として移民の適応(自民族化や現地化、越境化)に大きな影響を及ぼすことがある。そのために、宗教を関わらせた移民研究への関心は近年になって急速に高まってきている。

本シンポジウムでは、宗教を切り口にして移民と越境行為を再考察する。宗教は移民にどのようなアイデンティティのネゴシエーションのための概念や活動を提供し、移民をめぐる関係性に変化をもたらす(あるいはもたらさず)、結果として生じる移民の適応にいかなる影響を及ぼすのかについて考えたい。3名の発表者を用意し、3種類の宗教(キリスト教、イスラム教、仏教)、3パターンの地域移動(南米・日本間、中東・ヨーロッパ間、日本・北米間)、3つの手法(宗教学、人類学、社会学)を越境させて議論を深めていきたい。

16:30-17:30 第4回運営委員会 (至誠館 3階会議室)

■同志社大学今出川キャンパス周辺地図

(〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入 / 地下鉄烏丸線 今出川駅前 → 地下鉄をご利用の場合は、西門から入ってください)



■至誠館教室配置図

